

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470300161
法人名	有限会社 サンテック
事業所名	小松崎あさひ園
所在地 (電話番号)	〒985-0072塩釜市小松崎4-45 (電 話) 022-367-7509

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 8 月 20 日

【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 23 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人、非常勤 人、常勤換算 12人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~38,000 円	その他の経費(月額)	22,000~27,000 円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,166 円		

(4)利用者の概要(8 月 20 日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	塩釜市立病院 ・ 宮町脳神経内科クリニック ・ ササキ歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者はみんなで老後を楽しく暮らす施設と思い、平成10年に事業として立ち上げた。開設当初は制限もなく参入できたが、年々規制があり意識改革となった。昨年2ヶ所目の施設も開設し、施設運営に意欲を見せていた。年月をかけて積み上げ地域にしっかりと根付き、今年度は地域密着型を理念に加え実践に向け取りくまれていた。職員にこのグループホームの自慢するところとは尋ねると入居者が笑顔で、自宅同様に穏やかに過ごせる環境にあるといわれていた。住宅地の中にあり、地域との交流もし易い。自然体で接する職員の対応が入居者のよい表情に現われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題項目6項目のうち5項目が改善されずに取り組みれていた。重度化の終末期に向けた方針は進めている途中で、今回も引き続き改善項目として取り上げている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	職員全員で取り組み、最終的に管理者がまとめた。職員は内容の難しさを感じながらも評価の意義を理解し、日頃のケアの振り返りとなった。改善計画シートなどを活用しサービスの質向上に向けさらなる改善を期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事前に家族会を開き、意見、要望を開き、入居者とその家族、町内会長、市関係者がメンバーとなり2ヶ月に1回開催している。あさひ園が地形的に困難な場所にある為、災害時の避難通路について町内会に協力要請するにあたり検討課題など話し合われている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会の頻度も高く、家族会の集まりも多い。職員と家族の連携もよくお互いに話しやすい環境である。一時離職者が多く家族からの要望もあり、家族会等で説明し理解が得られたと話されていた。重要事項説明書に苦情受付窓口を明記されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会に加入し、地域のボランティアも定期的に訪れ入居者の楽しみとなっている。近所の畑の取りたて野菜の差し入れや気軽に立ち寄られ話しこまれるご近所の方々、災害訓練の協力など地域との関係が良好である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に地域密着型サービスを取り入れ「地域と共に支え合い、地域に根ざした園を目指します。」と、あさひ園独自の理念として付け加えられた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、朝の申し送り時に唱和している。また、日々の取り組みから職員が各自介護の重点項目として課題を取り上げ、毎月全体会で検討しあい、理念を共有するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。定期的にボランティアが入り、歌、踊り、マジックショーを楽しまれたり、近所から取り立て野菜を差し入れていただいたり、近所の方が気軽に立ち寄られ、世間話をしたり、神社のお祭りや花火大会の見物、地域の防災訓練に参加する等交流されている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組み、話し合いをしながら各ユニットのリーダーがまとめ、管理者が最終的に取りまとめた。日頃のケアを見直す機会となり、改善計画書作成までに至ってはいなかったが今回評価する事で各職員が学んだ事をこれからは活かし取り組んでいこうとしている。	○	今回はじめて職員全員で取組まれ、評価の意義は理解された事と思う。さらなるサービスの質向上に向けて改善計画シートなどを活用し取組まれる事を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況などについて報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている。	事前に家族会を開き、意見、要望を聞き運営推進会議を開催している。入居者とその家族、町内会長、市関係者がメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。あさひ園が地形的に困難な場所にある為、災害時の避難通路について町内会の協力要請するにあたり検討課題として話し合うなど積極的に意見が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質向上に取り組んでいる。	行政の担当者との連絡、連携は良く保たれ、地域ケア会議など交流の機会が多い。入居希望者、家族等、地域の方々からの相談も多く、情報を提供し行政の橋渡しもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の頻度も多く、その都度状況報告をしている。また、定期的に家族便りで写真を同封し、近況報告をされており、金銭管理についてもきちんと報告され了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の集まりも多くその都度要望等を聞き入れ、対応されている。重要事項説明書の中に相談窓口も明記されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者があっても、職員の対応が基本的に変わらないことや管理者、職員と馴染みの関係ができているので入居者に影響を及ぼすことが少ない事を運営推進会議にて説明し理解が得られたと話されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は一ヶ月間かけてプロジェクターを活用し研修期間を設けている。対外の研修案内には希望を聞き参加を促し受講している。定期的に行っている園内研修にて報告会をする等職員のスキルアップに繋げている。資格取得に向けても推進している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会、ケアマネネットワークに加盟し、地域ケア会議等に職員が交代で参加し、交流の場となり意見、情報交換をしたり、サービスの質向上に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、事前に職員が出向き説明をし、10日間から2週間宿泊していただき、お試し期間を設けている。その様子を家族にも感じてもらい、本人、家族が納得した上で入居に移行している。その際できるだけ馴染まれた物を持ち込むなど不安を最小限にするよう配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆっくりと過ごしコミュニケーションをできるだけ多くとり、これまでの入居者の生活の様子や趣味など情報収集し、共に生活する上で理解し、共感し、支え合える関係を築くよう働きかけている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを活用し、これまでの生活の様子や面会時の家族の情報を参考に一人ひとりの思いを引き出し、生きがいのあるその人に合った生活が送れるようカンファレンス時に検討しあい支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式のアセスメントシートに情報を記入しそれを基に家族、本人の意見、意向を聞きながら入居者本位の介護計画を作成している。家族に説明し了解を得て実施されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にカンファレンスを開き、状況に応じて介護計画書を見直し、それを評価し必要に応じ作成したものを家族に説明をして承認を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により、その都度通院介助、外出の対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、かかりつけ医院の受診は本人、家族と話し合いその希望に添って支援している。家族同行時の受診に際しても情報伝達のこともあり職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りに関する指針、意思確認書を作成するまで進められていた。事業所としての終末期に向けた指針の体制固めをし、家族に説明できるよう準備をしていただきたい。	○	入居者、家族からの要望等を受け入れ、看護師の確保、医師との連携の体制固めをし、重度化や終末期に於ける対応の指針を打ち出し、入居者、家族に説明できるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護についての掲示もされており、職員の対応も自然体で、洗濯物をたたみながらの会話等から優しさといったわりの様子が感じ取れた。記録等も入居者の目の触れるところになく、入居者は穏やかに生活されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を尊重し、基本の流れに添った個別の対応をしている。職員間の情報を共有しながら思いを汲み取り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗、箸、湯呑は持ち込んだものを使用し、近所からいただく取りたて野菜、食材は地元で買出しに行き、入居者と共に準備、調理、後片付けをしている。また、誕生日には好きなものをお祭りにはお赤飯を炊いたり、行事にあわせた献立を取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常は2日に1度の入浴、日曜日は休みとしているが、その日の体調、受診、本人の希望を配慮し、原則毎日入浴支援をしている。特に入浴拒否をする方はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩を日課としている人、新聞、牛乳を取り入れてくれる人、食事時の準備、後片付け、洗濯物の干し方、取り込んでたたむなど一人ひとり役割があり、自発的に行っている。時折こられるボランティアの方と皆で歌い楽しい時間を過ごすなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出し、墓参り、七ヶ浜までドライブ、年に一度の日帰り温泉旅行など、入居者の希望によりその都度支援している。高台で道が狭い事もあり、近所を気軽に外出する事は困難であり、見晴らしの良いベランダにてお茶を飲んだり工夫している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は主旨を理解しており、鍵をかけず自由に入出りできる環境を当たり前のこととして受け止めている。施錠は夜間のみ対応としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	家族会、運営推進会議にて打ち合わせをし家族会、近隣住民、消防署の立会い、協力のもと年2回夜間想定も交えて実施している。災害に対する備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況を記録し、月2回体重チェックをしている。定期的に通院したデータを基に食事の管理をされてるとのことでしたが、食事全体のバランス等を考え、管理栄養士の指導が必要と思われる。	○	献立に偏りが出たり、高齢と共に食事が少なかったり、制限者への対応など栄養面に工夫が必要と思われる。地域包括支援センターの担当に協力を要請し専門的な視点で献立を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花に迎えられ、玄関入り口から廊下に面して居室があり、その入り口には可愛いプリントのカーテンが設えてあった。廊下の奥には日当たりと眺めの良いところにリビング兼食堂があり、そこで入居者は終日過ごされている。建物全体が落ち着いた雰囲気になっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広さに応じて費用が異なり、おもにフローリングにベットを置き生活されているが、状態、要望に応じて対応している。これまでに馴染まれた家具、位牌等を持ち込まれ思い思いに過ごされていた。		